

# ドル/円相場のトレード戦略

## ■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

### 【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面110円、これを割れても108円水準までであり、110円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日にドル/円は108円13銭まで下落しました。

急速に円高に振れた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

しかし、北朝鮮問題は長期化の様相となり、初めての日米経済対話を無難に乗り切ったことで、市場の目は米国の良好な経済指標やトランプ政権の税制改革への期待へと移り110円を回復する動きとなり、さらに108円割れを回避できたことで、ドルの底打ち感が出て、東京がゴールデンウィーク明けには114円台を回復するまで上昇しました。

その後、堅調な経済指標を受けて米国の6月利上げ期待が高まってきたことなどがドルを下支え

# ドル/円相場のトレード戦略

してきましたが、トランプ大統領の情報漏えい疑惑や、更迭したコニーFBI長官に対し、今年の2月にフリン前大統領補佐官に対する捜査を中止するよう要請していたとの疑惑が浮上しドルの上値も重い状況となっています。

トランプ政権の政策遂行力への不信感が高まったことで、米景気への悪影響が警戒され、今後は政治リスクをにらみながら米国経済実体の動向が焦点となる相場が予想されます。

## ■ 短期展望

先週は、原油価格の上昇や米株式市場の堅調さを背景にドルは113円台で底堅い動きで始まりまし。しかし、ロシアとの関係を巡り辞任したフリン前大統領補佐官に関する捜査を中止するよう前FBI長官に求めたとの疑惑で、トランプ大統領が弾劾される可能性が出てきたことを嫌気し、110円24銭まで値を崩しました。

今週も、米政権に関する政治的な不透明感は続き、ドルの上値を抑える要因となるでしょう。しかし、政治的な混乱は長期化する可能性が高く、ドルの急落の可能性は少ないように思われます。したがって、今週のドル/円相場は、110円~113円で明確な方向感のないレンジ取引が続くものと考えます。